

## 平成 27 年度 強度行動障害のある方の支援者に対する研修 実践報告会概要

1. 日時：平成 28 年 3 月 5 日（土）  
午前 10 時から午後 5 時まで
2. 会場：障害者職業総合センター 講堂・301 研修室  
（千葉県千葉市美浜区若葉 3-1-3）
3. 講師： ①講評：志賀利一氏  
（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）  
  
②講評/講義：田熊立氏  
（千葉県発達障害者支援センター 副センター長）
4. 参加者数：258 名
5. 実践報告内容：別添のとおり

※平成 27 年度強度行動障害のある方の支援者に対する研修

県内の障害者（児）入所施設の支援員 16 名が参加。平成 27 年 5 月  
9 日（土）から開始し、年間 38 日間の研修を実施。

講堂		
講師 志賀 利一 氏（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）		
12:30	（社福）大久保学園 東葛中部地区総合開 発事務組合立 みど り園	対象の方は、食事や活動の時間が数分ずれると、他害で嫌悪感を表現していた。この行動問題の背景にある「変化への抵抗」「時間へのこだわり」を、「律儀に同じことを繰り返す」「時間がわかれば安心する」という強みととらえなおすことで、他害を減少させることができた。その支援経過を報告する。
12:55	（社福）南台五光福 祉協会 やまぶき園	帰宅や行事があると不安になってしまう方が、安心して生活できるように、対応の統一をはかった支援経過について報告する。
13:20	（社福）心友会 しいのみ園	洗濯や外出などの要求を、頻繁に自傷や他害で表現する方にたいして、記録に基づく支援を行った。洗濯や外出といったこだわりを、困った行動として捉えるのではなく、生活の中の目安や楽しみとして組み込むことによって、行動問題が減少した。その支援経過について報告する。
13:45	（社福）児童愛護会 青松学園	情緒が不安定になりがちな方について、作業環境や関わり方を見直した。特性に配慮し、支援の統一をはかることで、作業への取り組みが増えて、行動問題が減少した。また、作業が安定することで、睡眠障害の改善がみられた。作業を中心とした日中生活の安定が、夜間にとっても大切であることが示された支援の経過について報告する。
14:10	前半 4 施設についての講評	
14:30	休憩	
14:45	（社福）父の樹会 ガーデンセブン	帰宅の要求が理由だと思われた自傷行為について、詳細な記録のため関わりを増やす間に回数が減少した。帰宅に関する職員とのやり取り自体も要求の対象だと仮説を立て、帰宅スケジュールの提示やコミュニケーション機会の増加に取り組んだ経過を報告する。
15:10	（社福）さざんか会 のまる	対象の方は、生活のなかに気になることがあると、激しい破壊行為などで不安を表現していた。行動問題の背景にある対象の方の特性について改めて確認し、支援を行った経過を報告する。
15:35	（社福）安房広域福 祉会 中里の家	特定の人を決めて叩きにいてしまうという方にたいして、できることを活かした自立的な作業、作業環境の見直し、コミュニケーション機会の設定など特性に配慮した支援を順次すすめていった。その結果、なぜ叩くのかという理由が少しずつ明らかになってきた。支援を通して、対象の方の思いを知った経過について報告する。
16:00	（社福）いずみ会 袖ヶ浦学園	帰省の後、長期間にわたって睡眠リズムが乱れ、行動問題が頻発する方への支援について報告する。特性に配慮した日中活動を実践するために、班編成から見直した。さらに、ご本人のこだわりを、生活の習慣ととらえて尊重する支援を行うことで、行動問題がほとんど起きなくなった。帰省後も安定して過ごせるようになるまでの支援経過を報告する。
16:25	後半 4 施設についての講評	

301 研修室		
講師 田熊 立氏 (千葉県発達障害者支援センター)		
12:30	(社福) かずさ萬燈会 木更津中郷丸	嘔吐や服濡らしなど儀式的なこだわりがいくつもある方への支援について、儀式行動の中でも、施設外の方へ影響が出てしまっている「他者の顔を触る」行動を取り上げた。対人的な刺激を快く受け止めることを目的とした療育的支援や視覚的な認知の強さを活かした支援を実践した。その結果、変容が難しいとされる儀式的な行動に折り合いをつけることができるようになった支援の経過を報告する。
13:00	(社福) 清輝会 エルピザの里	現在生じている行動上の課題について、背景にある特性を推測し、強みを活かした支援を計画した。集団での行動が苦手な方への支援の経過について報告する。
13:30	(社福) ロザリオの聖母会 聖家族園	他者のシーツをはぐことから始まる一連のこだわりについて、徹底して記録をとりながら、様々な支援を試みた。その支援経過について報告する。
14:00	(社福) 心聖会 作山更生園	他者と場所を共有することが苦手な方が、集団生活である入所支援を利用することは、高いストレスを受けることになる。限られた施設空間の中で、時間・場所・活動の組み合わせを工夫することで、頻発していた他害と暴言を減らすことができた。その支援経過について報告する。
14:30	休憩	
14:45	(社福) 愛光 めいわ	無届外出や他害のある方にたいして、情緒の安定を目指し、構造化のアイディアを用いた生活支援を行った。強みを活かし、苦手に配慮した支援によって、役割のある自立した生活が少しずつ形になってきている。その支援経過について報告する。
15:15	(社福) 桐友学園 沼南育成園	自分の体を強く縛るなど身体感覚に強くこだわる方が、数年をかけて外の刺激を受け入れ、自縛を解くことができた。激しい自傷・他害・破壊行為がありながらも、作業へと出られるようになるまでの支援の過程を報告する。
15:45	(社福) 翡翠会 山武みどり学園	こだわりを通そうとするために、様々なトラブルへと発展してしまう方にたいして、行動を制限するのではなく、特性に配慮した支援を行った。さらに、強みを活かした日中活動を設定することで、安定して生活することができるようになった。その支援経過について報告する。
16:15	(社福) さざんか会 北総育成園	長年にわたる異食を、ほとんどすることがなくなった。この行動問題の解決を通して、行動障害の支援においては、研修で学んだ支援技術を日々の支援に落とし込み、実行できる支援者集団が必要であることを再確認した。支援の土台としての組織の在り方についても報告で触れたい。